海外だより

韓国の大学体育

九州共立大学　鄭　　英　美

１．韓国大学での体育活動及び教科の区分

スポーツ活動への参加は健康の維持増進は勿論，余暇活動の場づくりの手段としてその大切さは日々強調されている。スポーツ活動への参加人口は年々増加し続けていることがこれらを裏付けている。昔ながらにスポーツ文化の発達段階が福祉国家の判断尺度とされていることから見ると，スポーツ活動への参加人口の増加は結局，スポーツ（体育）の文化的価値上昇の意味として判断することができる。一般的にスポーツ活動へ参加する人の類型は様々である。

しかし，韓国でのスポーツ参加の類型は大きく２種類に分類することができる。一つは，学校体育（部活動含む）であり，二つ目は，一般スポーツ活動という構造として成り立っている。ここで学校体育（部活動含む）とは，小・中・高・大学等，学校の正規教育課程の中に設置されている教科として体育（教育）に参加することを意味し，一般スポーツ活動体育とは，学校体育教育とは別に一般的なスポーツ活動に参加することを言う。

特徴的なことは後者の場合は，ほとんどの人が健康または，余暇の手段として参加しているため比較的，自由で開放的な雰囲気の中で行われる。一方，前者の場合には殆どの学生が教科課程という特殊な状況の中で授業または部活動として参加しているため，相対的に不自由で閉鎖的な環境の中での参加になる。

一般的に学校という組織の中で行われているスポーツ（体育）活動は更に三つの類型に分けることができる。第一は，運動部選手としての参加，すなわち競技スポーツが中心となっている競技スポーツ選手であり，第二に学校の教科としての体育（授業），そして第三は，学校の体育授業以外に自律的に行われるスポーツ活動である。大学のスポーツ（体育）文化を構成している要素も前述ように学校体育の中の一つとして小・中・高等学校と同様に教科課程の中にある学校体育教育を含んだこの３種類のスポーツ（体育）活動である。

まず，一つ目は，大学学校での競技スポーツ（運動部）の運営は，優秀なスポーツ選手の育成と該当大学の広報の手段としてその価値が認められている。そして二つ目は，正規教科である教科としての体育（授業）活動はまた，専攻体育と教養体育の二つに両分される。その中の専攻体育はスポーツ（体育）関連分野を専攻とするスポーツ（体育）学科の中心専門科目を指す一方，教養体育は大学生なら誰でも受講できる選択科目で，講義と実技の授業として運営されている。三つ目は，それぞれのクラブ・サークルなどとして，自律的に運営されているいわゆる教科外の自律スポーツ（体育）である。この自律スポーツ（体育）活動は正規教科として運営されている教養体育と密接な関りを持っている。その関りとは，教養体育での経験からスポーツ関連クラブ・サークル活動に繋がる場合もあれば，もともとスポーツが好きでスポーツ関連クラブ・サークルの活動をするために教養体育の科目を選択し，該当種目について体系的に学びながら仲間を作るなど，スポーツの輪を広げるケースが多い。

これらのように大学体育の中で特に正規教科として運営されている教養体育は大学のスポーツ（体育）文化を代弁する代表的な領域に違いない。その理由としては，教養体育は所属大学の学生であれば誰でも参加できることから，教養体育は専攻体育と同様のレベルで該当スポーツ種目について体系的に学び，専門的な技能や能力の習得ができる。またその中で幅広い仲間づくりは勿論，心身共に活気のある大学生活を設計することができる。

２．韓国の大学教養必修科目の編成現況

韓国の殆どの４年制大学では卒業履修単位を少なくても125単位から，多い場合は166単位を卒業可能単位として設定している。大学の教科としては，大きく専攻教科と教養教科に分け，編成運営している。専攻教科では次期社会人として必要な専門性，専門的な能力や技能を習得できる教科であり，教養教科では大学

生，また，社会人としての身に付けるべき基本的な教養徳目を開発・習得させることを目的としている。

特に，専攻教科で強調しているいわゆる専門性とは，将来職業人として各分野で必要な具体的で専門的な知識や能力の獲得を意味し，後者の教養教科とは高等教育である大学教育を受けた人なら誰もが身に付けなければならない基本となる教養知識や徳目で，これから社会人として生きていく上で必要とされる基本教養のことである。これらの意味から見ると前述の二つの分野ともに非常に重要で，かつ教育的価値を持っていることと考えられる。

しかし，多くの大学で教養必修科目として開設運営している科目を見てみると，ほとんどの大学で外国語領域とコンピューター関連（エクセール，ワード，パワーポイント）科目である。スポーツ（体育）関連科目は自由選択科目の中に含まれている。しかし，スポーツ（体育）関連専攻ではない学生は４年間で１講座（１単位）を受講するか否かの言葉通り自由選択である。これは今日の大学の教育は心身ともに健康で教養のある社会人の育成より，単純に職業人の養成教育だけを中心として運営され，職業人として社会へ輩出する直前の職業教育として必要なスペックづくりに過ぎない教育が行われていることを反映している。

３．韓国大学スポーツ総長協議会

１）設立目的

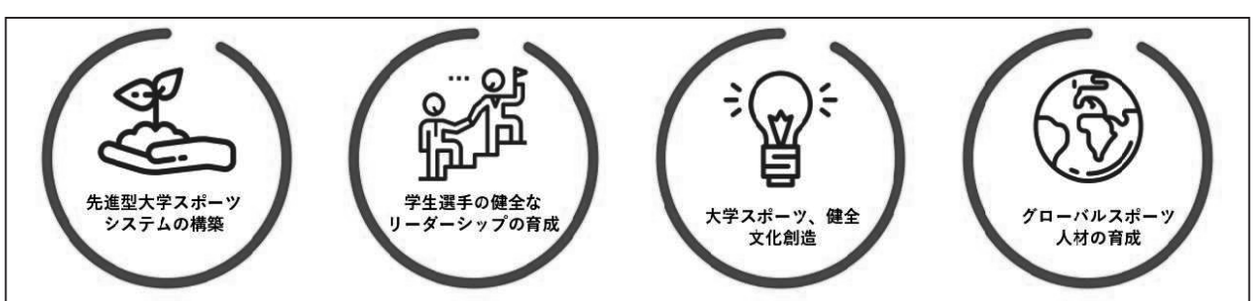
韓国大学スポーツ総長協議会は，大学運動部（競技部）を運営している大学の協議体として，大学スポーツの発展のために自律的な協議・研究・調整・支援を通じて大学スポーツの健全な育成のために設立された韓国大学競技スポーツを代表とする国内唯一の機関である。2010年６月創立総会を経て，2010年 ７月文化体育府長官の承認を得た。2016年，現在全国98大学が会員大学として韓国大学スポーツ総長協議会と共にしている（http://kusf.or.kr）。

２）基本方針

大学スポーツの健全な育成及び発展を図り，大学スポーツの本質を回復させ，スポーツ文化の先進化，学士・財政・施設など主要関心分野についての協議・研究・調整・支援の下で相互協力し，学生選手がスポー

（韓国Ａ大学の教養必修科目及び履修単位）

教育領域	履修単位	教科名（単位）	コード	区別
外国語及び人格領域	４単位	大学生活指導と人格Ⅰ（1）	１年生必修	必修
		大学生活指導と人格Ⅱ（1）		
		大学生活指導と人格Ⅲ（1）	２年生必修	
		大学生活指導と人格Ⅳ（1）		
外国語領域	８単位 選択１	生活英語初級Ⅰ（2）	１～２年生	必修
		生活英語初級Ⅱ（2）		
		生活英語中級Ⅰ（2）		
		生活英語中級Ⅱ（2）		
情報処理領域	４単位	コンピューター活用能力（ワード及びエクセル）	コンピューター室	必修
		エクセルとアクセス(2)　パワーポイントとワード(2) ナーモとドリームウィーバー(2)　ポートシャッターとイラスト(2)	オンライン講義	選択１ 必修
履修単位	16単位			



韓国大学スポーツ総長協議会の基本方針

ツ活動や教育参加を通じて精神的・肉体的・社会的に健全なリーダーシップを取り揃えるように支援する。また，スポーツ文化形成や発展のために政策支援が必要とされる場合には政府に向けて要請するなど，優秀な学生スポーツ選手の育成や多様なスポーツ活動を通しての国民団結及び国家イメージ向上のために活動する。

３）主な支援状況

韓国大学スポーツ総長協議会では主に大学の競技スポーツ団体の支援を行っている。